

目的 規格サイズに適合した衣服を製作するためには、パターン、縫製技術など種々の要素が考えられる。特にパターンは衣服製作の基礎として重要である。衣服を製作する場合、各ピースを縫合してひとつの型に作り上げるが布地を縫合することにより各ピースの巾がせまくなり出来上が、衣服が規格サイズより小さくなることをしばしば経験する。特に厚手の布地において顕著である。これは縫合によって生じる縫いべりによる結果と思われる。そこで縫い目の多いデザインや厚手の布地などの場合、規格サイズの衣服製作のためあらかじめパターンに縫いべり分を加えてパターンを作製したり、または縫合の際しるしの外側を縫うなど縫いべりに関してはこれまで衣服製作者の経験に依っていろいろ多い現状である。そこで今回、布地の縫合することにより生じる縫いべり寸法に観点をおき、縫いべり寸法を定量的にとらえることを試み、布地の厚さ、糸密度、方向、縫い目の大きさなどの違いによる縫いべり寸法について検討した。

方法 試料布の厚さ、糸密度の異なる市販毛織物4種類を用いた。縫製条件は試料布を中表2枚重ね、布地の縫合方向は横、よこ、45°バイヤス3方向、針目の大きさは $\frac{4}{2}$ 針/cmの2種類、縫い糸はポリエステル縫い糸60<sup>#</sup>とした。なおミシンは一般家庭用本縫い。

結果 布地の厚さの違いによる縫いべり寸法は、布地が厚くなるほど大きくなる。布地の方向による縫いべり寸法はよこ方向が大きくなる傾向を示した。特に厚い布地の場合縫いべり寸法は大きくなる。針目においては針目の小さい $\frac{4}{2}$ 針/cmの方が縫いべり寸法が大きくなる傾向を示した。